2009年度

保育方針

（2008年度保育総括）

～あたたかく　やわらかく　ゆったりと～

2004

2009

翼・彩・さや華、
ホッチ・聡一郎・兼大からのバトン、
受け取ったかな？

2009年度ー中川学童保育所ー

in The place after school where you can be yourself

http://lovekids-dream.com

★目次★

はじめに－2008年度総括にかえて－ ……P2

1，成果 ……P2

2，課題 ……P3

3，学童をめぐる情勢 ……P3

具体的保育方針 ……P4

1，指導目標 ……P4

2，子どもたちに培いたい力

3，集団像－こんな学童に－ ……P5

4，　子ども像－こんな子どもに－

5，2009年度重点目標

【2009年度－目標－】 ……P5

【系統・継続的－目標－】 ……P6

6，学年別目標

7，子どもたち一人一人の発達課題について ……P7

8，各分野別達成目標

9，名古屋学童保育南部合同委員会への参加について ……P8

10，父母の皆さんと共に ……P9

11，2009年度分野別達成目標 ……P10

はじめに
―2008年度総括にかえて―

1，成果

2008年度後半、学童に響いた「見て！」「できた！」の大合唱！そして、「もしもしカメよ…」の歌に合わせたけん玉のカチカチという小気味良い音。

そうなのです、2008年度後半はみんなが目標をもって伝承あそびであるコマ・ケン玉などの技に挑戦し、一人一人が確かな力を身につけることができました。そして、そんなちょっぴり大きくなった自分を見てもらおうと、卒所式の時にみんながイキイキと頑張っていた姿は、またお友だちのチャレンジを一生懸命応援する姿は記憶に新しいところです。

第28回港区子どもまつりにて

港区“もしかめ王”に輝いたホッチ(手前・2008年度卒所生)もさることながら、このステージにさや華・夏詠・千絢も立ったこと、ここに2008年度の成果を見ることができます。

そんな子どもたちの姿…、ここに学童という場所、その本質を見ることができます。一人ではないから、連続した生活の中でつながっている友だちがいるから、目標になる上級生がいるから子どもたちは自ら目標をもち、ちょっと先の“大きくなった”自分を見通すことができます。

この一年、教えあい、学びあい、励ましあえる関係がある学童で、子どもたちは一人一人が着実に大きくなりました。そしていつもそんな中川学童っ子の先頭に立っていたホッチはじめ聡一郎・兼大を送り出す事ができたこと、また途中退所が1名だったこと…、このことは大きな成果です。

さて、2008年度もこの間の継続的な方針と共に、

① お友だちの話を聞こう！
② 自分の気持ちを言葉で表そう！
③ モノを大切に！
④ メリハリのある生活をしよう！

スイッチのOn Offを自分の意志で行うことができるように。

＊「ヤル時はやる」という意味です。

上記の4項目を当該年度の重点方針として保育にあたってきました。

そんな重点方針であった①②については、子どもたちの間で葛藤が生じた時に、当事者だけでなく、その問題を全体で共有することで一定の成果を得ることができました。

反面、特に③については、全体的に子どもたちは“モノに対して無頓着である”と言わざるを得ず、例えばハサミなどについては指導員で管理せざるを得ませんでした。また、④のねらいである「基本的な生活を子ども自身でつくる」ということについては、私たち指導員が声高にリードする場面が多かったので、このことは依然として今後の課題です。もちろん①②についても、学童が子どもたち一人一人にとって居心地のいい空間になるよう、継続的に子どもたちと考えて行きます。

さて、全段で子どもたちが「自ら生活を創ることができない」と述べましたが、これは視点を変えると、みんな学童でのびのびと生活することができているということであり、否定すべきだけの事象ではありません。

こうした中、2008度も中川学童らしさをこれまで以上に他学童との関係の中や地域の中などで発揮することができたのではないかと思います。

地元・老人ディサービスセンター『津金の里』はじめ、各デイサービスセンターへの慰問（合唱・太鼓演奏）を継続的に行い、お年寄りの皆さんとの交流を積極的にはかるとともに、学区盆踊りや区内の学童の交流の場でもある『港区子どもまつり』『大地の舞』などでは積極的にイニシアチブをとると共に、それらの成功に大きく貢献することができました。

そしてその何れの機会においても、無理をせず自然体でのぞむことができたことは、継続した日頃の保育の成果であると思います。また、こうした時にOBの子どもたちが貢献してくれたこと、2008年度の特筆事項です。

2，課題

4つの重点方針について、課題はあるものの一定の成果をあげることができたと前段で総括しましたが、しかし、成果として「行事に対し、自然体でのぞむことができた」と記したものの、もう少し掘り下げると日常生活の構築と行事との関係では矛盾点も生じるので（たとえば、子どもたちの自発的な自由あそびを中断して太鼓などの練習を行わなければならないこと）、このことは今後の課題です。

本年度・2009年度も学童の基本である日常生活のさらなる充実をはかる中で、そのための一つのきっかけとなり、子どもたちの可能性をもう一つ広げる契機となる行事等についても、積極的に取り組んで行きたいと思います。

また、こうした取り組みを通して、そんな中での子どもたちの姿を保護者の皆さんと共有して行きたいと思います。そして、共に子どもたち一人一人の今を捉える中で、“学童”と、ここで過ごしていることの意味を確かめて行きたいと思います。

3，学童をめぐる情勢について

名古屋市は2009年4月から学童保育とトワイライトスクール(全児童対策事業。以下『トワ』)を、小学校の中で一体的に行う新モデル事業を開始ししました(学童保育の機能を選択し利用する場合は5,000円が必要です)。その前段として保険料の500円のみで利用できるトワが全校実施されていることとと共に、こうした安価に利用できる事業の実施は、学童にとっては表面上は大きな脅威として映ります。

しかし、こうした状況下、2009年度はここ数年にはない多くの新入所児童を迎えることができました。このことは学童保育には個別の役割があるということと、学童が保護者の皆さんの想いに寄り添うことができている…ということの証明です。

このことをチカラに、ブレることなく、親子に取って確かな“イバショ”となっている学童の中身を今年度も膨らませて行きましょう。

学童を巡る情勢については
『2009年度父母会総会議案書』P4～、詳しくはこちらをご覧ください。

学童保育の特長と優位性…それは、子どもたちの“生活の場”であることと、子どもを真ん中に父母が寄り合えることです。このことに確信をもって、共に中川学童を充実させて行きましょう。

具体的保育方針

－中川学童の基本方針－

＊指導員も親も、こんなふうに子どもたちを見て行こうヨ！

～あたたかく　やわらかく　ゆったりと～

- 子どもたち一人一人の育ちのスピードは違います。
  先ずは、あるがままの今の我が子を認め、その時の現象面だけにとらわれず、長い目であたたかく見守って行きましょう。
- どんな子に…なかまの中で自分を輝かせ、
  なかまとともに生活を切り開いて行くことができる子に！

1．指導目標

親の労働と、子どもたちの放課後の安全、且つ豊かな成長発達を保障するため、最低一つの区切りとなる年度末まで、学童に在籍する子どもたちが自分からすすんで学童に通えるよう、一人一人の個性を大切にすることを第一義的に、学童保育がもつ異年齢集団の特性を活かし、あそびを通じて以下の力や心を育てられるよう保育にあたります。

ファイナル・アンサーではなく…

乱暴な言い方ですが、学童に対しての子どもたちの入退所権（何かがあった時に学童を続けるか止めさせるか…といったこと）は(-_-;)、その時々の子どもたちの想いも然ることながら、最終的には父母の想いに拠るところが大きいといえます。

学童に預けている中、子育てのこと（我が子の育ちや問題行動、友達との関係　等）で、そして運営のことなどで父母の皆さんも色んな想いを抱えることでしょう。しかし、その時々の想いや現象だけで性急に判断することだけは避けてくださいね。

もしも、引っ越しなど物理的な状況の変化ではなく、退所ということを考えなければならなくなった時などはファイナル・アンサーではなく、ぜひ、相談というかたちでお知らせください。

2．学童保育の中で子どもたちに培いたい力

① 基礎的な知識と生活技術。
② 豊かな情操と健康な体。
③ 豊かな社会性。
④ 生命を大切にして相手のことを尊重できる人間性。
⑤ 豊かな生活体験をみんなで創りあげることで、
学力の土台となる生きた知識や集中力、粘り強さ。
⑥ 生きる意欲。
⑦ 平和と民主主義への理解。

3．集団像ーこんな学童にー

① 一人一人が大切にされ、主人公になれる学童。
② 子どもたちの日常生活の中でおこる問題を、
仲間として励ましあい、助け合い共感しあえる学童。
③ みんなで話し合い協力し合いながら、
一つのものを創りあげて行くことのできる学童。
④ 豊かな文化にふれ、それを守り発展させられる学童。

4．子ども像ーこんな子どもにー

① いつも元気で明るい子。
② あそぶこと、働くこと、学ぶことに意欲的な子。
③ 仲間の中で自分を発揮することができ、
仲間と一緒に最後までやりぬくことができる子。
④ 人の役にたつことが好きで、誰にでも優しくできる子。
⑤ 正義感があり、平和と民主主義を愛する子。

5．2009年度重点目標

～中川学童の現在の集団の状況から～

これまで中川学童は、伝統的に、当の子どもたちは意識していないものの、「リーダーシップをとることができる子」が、私たち指導員が特別に働きかけなくても、自然に集団を引っ張ってきてくれました。

しかし今年度のリーダー集団は、あそびの中での存在感を除くと、そうした力量は乏しいので(このことが悪いということではありません)、当面は具体的に行わなければならないことをきちんと示してあげることで、彼らの自発的行動を促して行きたいと思います。

また、2008年度一年をかけて落ち着いてきた集団の質をさらに高めて行きます。そのためには、昨年度掲げた目標と共に、以下のことを子どもたちの具体的目標としてあげたいと思います。

【2009年度－具体的目標－】 *子どもたちのスローガン

① *自分たちで生活をつくろう！*

2008年度に培ってきた力を基礎に、学童生活を子どもたち一人一人がより主体的に送ることができるよう見て行きます。

② *お友だちに優しく,自分にきびしく！*

何かあった時に一方的にお友だちを責めてしまう傾向があるので、まずは「相手の立場にたって考えてみる」…このことを子どもたちと粘り強く話し合って行きたいと思います。

もちろん、我慢するだけでなく、自分の気持ちをきちんと伝える…ということも大切にします。

そんな中、相互理解を深めたいと思います。

子どもたちは求めています…

「オンブして！」「だっこして！」
そして指導員の体をさわったり、憎まれ口を叩いて心の中で
「ボクを、ワタシを見て！」

【系統・継続的－目標－】

① *お友だちの話を聞こう！*
② *自分の気持ちを言葉で表そう！*
③ *モノを大切に！*
④ *メリハリのある生活をしよう！*

スイッチのOn Offを自分の意志で行うことができるように。
＊「ヤル時はやる」という意味です。

6，学年別目標

１年生― 学童が好きになり、のびのびとお友達とあそぶことができるように。

そんな中、一年間の学童生活を通して来年の3月には次年度の学童生活を見通すことができるように、毎日の生活や行事がワクワク･ドキドキしたものとなるよう働きかけて行きます。

今年の1年生はまとまりとパワーがあり、みんなであそぶことに意欲的なので、“将来幹部候補(#^.^#)”として、上級生の中でしっかりあそばせたいと思います。

２・３年生―

各学年とも集団が小さく、一人一人のあそびなどに対する要求が異なるので、前半は指導員と関わる時間も大切にし、先ずは学童の中でのびのびと過ごすことができるように見て行きます。

後半は、これまでの学童での生活体験を活かし、日常生活の中でポイントとなる部分では2・3年生集団として(一人一人はやるべき事をきちんと行うことができます)主体的に行動できるよう働きかけて行きます。

各学年集団が小さいことから、同学年の友だちがいなく、学童に対して不安を感じることもあると思うので、そんな想いを受け止めながらも、学童で生活することの見通しを育んでいきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

４・５年生― 一人一人の力量と個性は異なるものの、それぞれが良いところを持っています。例えば、「明るく、みんなに慕われるところ」「子どもたちの憧れの対象となるあそびの力量があること」などは、この学年の多くの子が持ち合わせています。

こうしたことから、この学年の子は活気ある時間を生み出すことができますが、反面歯止めがきかなく暴走してしまう傾向もあるので、みんなが楽しく生活するためには、「ルールが必要なこと」「自分で自分をコントロールすることも必要だということ」など、こうしたことをこれまで以上に、子どもたちと考えて行き、各自が勢いだけでなく集団の中で存在感を示すことができるように見て行きたいと思います。

６年生― 「一人一人がのびのび過ごすことにかけては天下一品の学年ですが、その力が集団としての力にならない弱さがあります」…と、毎年総評してきたこの学年ですが、ここにきて少しずつ変化して

きました。
昨年度末、卒所式の司会を務めた経験は大きく、これまでの“その時の気分”や“自分中心”から、“学童の中での自分”を意識できるようになってきたのではないかと思います(『てだのふぁ』2009年度№8，№12参照)。ですから意図的に具体的な課題を示すことで、今芽生えてきたそんなチカラを大きく膨らませて行きたいと思います。
真の低学年の憧れの対象になって、2010年3月、3人で卒所式を迎えたいですね。

7．子どもたち一人一人の発達課題について

『てだのふぁ』にてお伝えすると共に、各月の父母会の中で、一人一人の現状を捉えると共に懇談して行きます。
家庭の中で子どもたちが抱えている想い、そこから現れる子どもたちの行動などについても（＝子どもの想いや成長の課題、発達における現状と課題）、共に考えあうことができる機会を設けて行きたいと思います。

【具体的には】
父母会の充実
＊先ずは定時開催から～

8．各分野別達成目標

前述した指導目標を達成するために、各分野別に目標をたて、長い見通しをもちながら具体的な活動を通して日常の保育にあたります。
※詳しくは別紙参照
ところで、前述してきたように目標とすることは多々ありますが、そうした学童としての普遍的なテーマを持ちながらも、時々の課題に即した具体的な保育内容を提案して行きます。
なお、今年度は、昨年度に引き続き、前述の『重点目標』と共に、特に以下のことに留意して行きます。

★基本的生活習慣とリズムの確立－

学童が真の子どもたちの自治空間となるように、
必要最低限のことは言われなくてもできるようにしたいと思います。
【具体的には】
①こども会議の充実
②班長･副班長チャレンジデーの企画と実行
③班単位による当番活動の実施
基本的生活習慣については、各家庭でも、チェックしてください。
【例えば…】○あいさつ　○整理整頓　○食事をとる時の姿勢など

★伝承あそびの系統的な取り組み

ケン玉やコマなどの伝承あそびには、長年にわたって確かめられてきた、子ども達の成長にとっての優位性があるあそびです。
それ以上に、多くの子どもたちにとっても、魅力のあるあそびの一つですので、今年度も系統的に取り組んで行きます。
ここ数年はこの取り組みが功を奏し、子どもたち一人一人が「楽しい」「やればできる」と言うことを体感したのではないかと思います。
従って日常生活の中で自然にふれ合えるよう、意図的に働きかけて行きます。

子どもたちのあそびって?

●あそびを通してルールを守ることの大切さを学ぶ。
●自立心や自律心が育つ
●物事を考え、判断する力が育つ。
●思いやる心、協力し合う心が育つ。
●からだ全体の発達を促す。

以上があそびの持つ『教育的側面』として要約されますが、子どもたちは日ごろそんなことを考えてあそんでいるわけではありません。ですから、上記意図を持ちながらもその活動(あそび)が何よりも面白く、自由な雰囲気で行われるように、見て行きます。

そして、子どもたちの自発性に基づいた想像的なあそびを大切にし、それが発展するよう援助して行きます。

9．名古屋学童保育南部合同委員会への参加について

4学童になって4年目の合同委員会の2008年度は、順調に推移しました。しかし全体としての在籍児童数が年々減少しているため、残念ながら今後の見通しは不透明です。しかし、こうした現状だからこそ、合同を始めた原点に立ち返り、今年度もそんな合同委員会をリードする立場で、参加して行きましょう。

－何故？合同？－

中川学区の状況と、名古屋市の動向を考えた時に、単独運営は今後困難になって行くことが予想されます。このことは我が子が自分の足で毎日通うことができる学童保育所が、地域の中から喪失してしまうことを指します。従って、他学童との協力・共同化へ向けての取り組みとその推進を積極的に行うことは必要不可欠のことです。

【保育の中では…】

⑴合同保育の実施
　①1年生の4月期
　②土曜日合同保育の定期実施
　　各家庭の実態には最大限考慮して行きます－
⑵指導員の交換研修及び積極的移動

【合同化のメリット】

⑴指導員体制の安定
　⇒保育の安定
⑵指導員の雇用の安定
⑶各父母会の会計実務の簡素化

【課題】

⑴入所募集活動

⑵合同委員会に対する父母会の理解の低下
　＝指導員の雇用と条件に対する理解

１０．父母の皆さんと共に

子育ては親子の共育ちであり、私たち大人のあり方が問われる、ロマンのある取り組みです。学ぶことを大切に、私たち親も指導員も共に成長し合える関係を築いて行きましょう。

しかしながら、年々厳しくなる社会情勢の中、また多様化する価値観の中、父母会に結集することも困難になってきています。この間確かめてきた学童保育の原理原則を大切にしながらも、それぞれの家庭が抱える現状と父母の想いにも寄り添い、子どものみならず父母にとっても居心地の好い学童になるよう、今の時代に合った学童運営を模索して行きましょう。

同時に、他学童・他団体と協力して学童保育の充実をはかりましょう。

⑴父母会で積極的に子育て交流をはかりましょう！

⇒月に一回の会議です。ぜひ、位置付けましょう。

⇒『日本の学童ほいく』誌を定期購読し、活用しましょう。

⑵各習会等へ一緒に参加して行きましょう。

□全国学童保育研究集会（以降『全国研』）

今年度は滋賀での開催となるため、比較的参加しやすいと思います。参加にあたっては労力が要りますが、多くの皆さんと、共に参加して行きたいと思います。

全国研に参加すると、人生、変わりますよ(#^.^#)！

□その他

⑶他団体との共同の取り組みに、積極的に参加すると共に、各会議や動員には父母会の責任と援助で代表を派遣しましょう。

学童保育の役割

①共働き世帯、母子・父子家庭の権利と生活を守る。

②子どもたちの放課後の生活と安全を守る。
上記2点を最低限の基本としながら‥

③集団保育の優位性の中で、
子どもの豊かな成長発達を保障する。

④子どもと取り巻く大人たちの協力・共同の輪を
築くとともに地域へ広げる。

2004年
いつでも
どこでも
I・愛・ビーム！

彩・翼・さや華、
どこにいるかな？
＊1年生の夏

2009年度　分野別達成目標（年間保育計画表）

中川学童保育所

分野	区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2010・1	2	3	4
		第1期						第2期				第3期		
指導目標	年間目標	学童生活を子どもたち一人一人が主体的に、また、けじめをもって送ることができることと、学童の空間が子どもたち一人一人にとって居心地のいい場所になるようにー												
	各期目標	1年生を大切に自分のことは自分で行う			夏と夏休みの生活の充実			あそびを工夫することができるようになること			次年度へ向けて展望を持つことができるように			
	具体的内容	基本的な生活習慣の確立とルールづくり		キャンプを主体的に取り組むことで、みんなで力を合わせてがんばることの喜びを感じ、「仲間意識」を育てる。			生活リズムの再確認	秋の各行事を主体的に取り組む中で、仲間で創りだし、仲間で活動する喜びを深め、人間理解を深める。			一人一人の生活の質を高めることと、集団が高まることを統一させながら、一年間をまとめ次年度への展望を持たせる。			
集団作り	各期班目標	生活リズムを確立させキャンプを成功させる班					班長選挙	学童生活を主体的に送ることができるための媒体となる班。					班長選挙	
		異年齢集団の特性を活かし、新しいお友だちを温かく迎えると共に、子どもたち一人一人がのびのびと過ごすことができるようにー。					各学年間、また学年内の葛藤を喚起させ、個人の意欲を高める中で集団の質を高めるー。				「仲間意識」をより強固なものにするために、4月からの学童生活をもとに『共有できる財産』となる企画をみんなで考え成功させる。			
行事&生活発表	自治活動	行事等を主体的に取り組む中で、また、子どもたちの中で起きる問題を子どもたち自身で民主的に解決して行くことができるよう、子ども会議・高学年会議・班長会議などを定期的に設定。子どもたちによるあそび決めなどは、年間を通して、高学年を中心に実施。												
	学童内親子行事	☆日常生活の延長線上の中で、子どもたちの成長を確かめ合える場として、同時に学童をアピールする場として、各節に生活発表の位置づけで各行事を設定。			○キャンプ準備合宿								○卒所旅行　★卒所式	
			がくどうであそぼう！会			○親子合同キャンプ		○高学年合宿					★もちつきまつり　＆歓迎会	
	対外的親子行事					○学区盆踊り			がくどうであそぼう！会(体験入所日)の継続実施					
		＊地域からの要請には積極的に応えますー（老人デイ・サービスセンターでの太鼓演奏　等）							○港区学童合同運動会			○名古屋南部学童合同サッカー大会		
								○港区子どもまつり		○大地の舞				
あそび	自由	のびのびと自分であそびたいあそびができるように。					子ども同士で積極的にあそびを作り出せように。				一人で居る子にも声をかけることができるように。			
	集団	みんなであそぶことの楽しさを知る。					やさしいあそびから高度なルールのあるあそびへ。				スポーツ的なあそびにも積極的に関わることができるように。			
	伝承あそび（あそびの教室）		コマ教室				カンポックリ・ヤットコ（運動会へ向けて）				伝承あそびの達人（ケン玉・コマ教室）			
		その他、『かまぼこおとし』『石けり』『ゴムとび』等は年間を通して自然に行うことができるよう指導。												
基本的生活習慣の確立 手仕事・労働	手作業工作		○お家の人へのプレゼントづくり（5・6月）							○クリスマスプレゼントづくり			○新入所児童へのプレゼントづくり	
		＊季節に応じたプレゼントづくりとは別に、学童生活にメリハリをつけるために（同時に諸器官の発達の促進に）必要に応じて『工作の日』を設定。＊日常的に行うナイフを利用しての鉛筆削り　等。												
	おやつ食事（づくり）	◎おやつづくりは日常生活の中で積極的に関わることができるよう指導。												
		◎当番制でおやつの用意（配膳）												
								◎夏休みはキャンプへ向け、子どもたちによる食事作り（学童の庭で飯ごう炊さん）⇒春休み・冬休みなどにも実施（屋内）。						
	学童内美化整理整頓	☆後片付けがきちんとでき、物を大切にする⇒働くことの意味と、物の価値を考えることができるように。												
		＊掃除については、定期的に掃除の時間を設けることは時間的に無理があるので、おやつの食器洗いや、本棚及びロッカーの整頓が日常的に行えるよう指導。												
	学習	宿題を行うことを中心に、習慣づけることを目的に基本的には各学年とも帰所後すぐに一定時間を設定。												
情操	表現鑑賞相互理解	◎年間を通して、日記・合唱・読み聞かせを実施⇒子どもたち一人一人の結びつきを深めるために日記等は“てだのふぁ”で紹介						これらの取り組みを通して、						
		◎各文化行事への積極的参加　＊夏休みを利用して、観劇などに積極的に引率（子どもたちに良い文化を！）						□自分の気持ちを表現できるように						
		◎各生活発表会ー『和太鼓』『ダンス』『演劇』等の取り組み。						□お友だちを大切にし、平和を愛する心を培う						
啓蒙	父母と共に子育て・社会・学童を考える	☆父母会の充実＝父母会での子育て交流（『日本の学童ほいく』誌の定期購読へ向けて）。						☆学童内学習会開催の企画＆実施。					☆ あいち学童保育研究集会	
		■請願署名行動と署名学習会　■市交渉						★全国学童保育研究集会（滋賀）						
		☆学童通信『てだのふぁ』の定期発行						■区交渉						
		父母と指導員が共に築くこの取り組みがあることが学童の特長であり（例えばトワイライトと比較した時の優位性）、“学童保育”の生命線ですー												
他学童（港楽他）との合同の取り組み		◎一年生の4月期合同保育・土曜日合同保育												
		＊その他は適時、各行事を積極活用。												

＊具体的な保育計画や日程等については、各月配布の『保育計画表』をご参照下さい。